

特別寄稿

健康な歯の価値とは

医療法人社団 日吉歯科診療所(酒田市)
 歯科医師 熊谷ふじ子



早いもので、院長である主人と現在地に開業してから34年が経過しようとしています。開業当時、来院する子どもたちの多くが虫歯に罹患し、いわゆるランパントカリエスと呼ばれる口腔内全体が重症の虫歯になっている子どもも少なくありませんでした。3歳児健診では、受診者の90%以上が何らかのカリエスの問題を抱えており、当時山形県の3歳児の虫歯罹患率は常に全国ワースト3の常連でした。また、子どもだけではなく、大人の口腔内も惨憺たる状況でした。

そのような口腔内の惨状もさることながら、当時私たちが一番危惧していたのは、多くの人たちの歯に対する価値観の低さでした。「子どもは虫歯になって当たり前」、「虫歯は治療すればそれで事足りる」、「歯槽膿漏は治らないから痛みだけ止めてほしい」、「歳をとったら歯が無くなるのは仕方がない」などなど。「一生自分の歯で食べて人生を全うする」などと考える人はほとんどいなかったように思います。

「学校検診で虫歯だといわれたからそこだけ削って直してくれたらいい」、「どうせいずれは入れ歯になるんだから、今痛いところや穴があいて食べにくいところをちょこっと治療してくれたらいい」と考えて来院する患者さんを目の前にすると、お口の中を清潔にするために歯磨きがしっかりできるようになるように指導をすることすら本当に難しいことでした。虫歯や歯周病の原因は口腔内に住み付いている細菌の異常繁殖が原因ですから、口腔内を清潔にすることは治療するにあたって最低条件なのですが、「せっかく来たのに歯磨きしかしてくれない」、「めんどくさい歯医者だ」と患者さんからの評判はよくありませんでした。

そのような悪戦苦闘の日々を過ごしていた頃、一人のお母さんが私にこういいました。「先

生、私は虫歯が多くて苦労していますが、自分の子にはできたらそんな苦労はさせたくありません。本当に虫歯にしないようにすることはできますか？」お母さんの目は本当に真剣でした。子どもの健康を願う親の心があふれていました。

このお母さんの気持ちをどんなことがあっても形にしなければと思い、仕上げ磨きを毎日すること、フッ素を使うこと、おやつは一日1回、定期的に歯医者さんに来ることなどいくつかの約束をしてその日から二人三脚での取り組みを開始しました。そして10年後、その子はカリエスフリーの見事な永久歯列を手に入れました。お母さんが健康な歯の価値を認めたことが成功のもとでした。



この34年間、私たちが実践してきたことは健康な歯の価値をよく知っていただくことでした。そのために診療所ではスタッフを教育し、患者さんやその家族を教育し続けました。教育のための様々なツールをそろえ、リスクを評価するための唾液検査も今では当たり前のことです。院長は学校をはじめとして様々な場所に出かけて啓蒙活動を続けました。

日吉歯科で幼児期から定期的なメンテナンスを続けた子どもたちの約90%は12歳で永久歯カリエスフリーを達成しています。酒田市全体の6年生のカリエスフリー者率も50%を越えて、全